2021年　10月　子育てワンポイント

テーマ　「想像力を育てよう」

～想像する力は生きる力そのもの～

人の痛みがわかる人になってほしい。優しい人になってほしい。多くの親はそう願います。創造力や社会性にもつながる「想像力」を育むために親としてどのような関わり方を心掛けると良いでしょう。

想像する力は幼児期に伸びます

1 歳後半頃から遊びの中に想像力が少しずつ生まれ、3 歳を過ぎるとお友達とイメージを合わせてごっこ遊びをするようになります。物を何かに見立てる。何かをやっているつもりになる。ごっこ遊びをする。このような姿は、想像力が育っている証拠です。

想像力を伸ばす遊びの素材とは…？

完成品より未完成なもの。色や形が単純なもの。積み木を見て、車・携帯電話・食べ物などイメージするものは、子どもによって様々。

想像力はこんな力へとつながっていきます

思考する。（情報を応用する）
相手の気持ちを推理する
（自分の経験を他人に応用する）
自分の思いがある…これらは、大人になっても必要とされます。

想像力が未発達なままだと…

言われたことしかできない。自己中心的。相手の立場で考える事が難しい。感謝や共感の気持ちがわかない。

想像力を伸ばす関わり方

- 見立て遊びや真似っこ遊びでは子どもの問いかけに応答しましょう。
- 子どものイメージの世界に入って、一緒に楽しみましょう。
- 子どものおしゃべりや行動を否定するのはやめましょう。子どもはイメージする事をやめてしまいます。
- 子どもが見つけたものを一緒に見てみましょう。
- 親子で会話を楽しんでみましょう。

親自身がストレスを抱えすぎずに過ごすこと、子どもが声を掛けてきた時におおらかな気持ちで対応することによって子どもは安心感の中で発想をより豊かに広げていきます。心身を休め、脳がリラックスしている時が想像力がぐんぐんと育つといわれています。親子で一緒にゆったりとした時間を設けてみるのもおすすめです。

～子どもは遊びながら想像力を伸ばします～

想像力が十分に伸びた子どもには、やがて**知識欲**の時代がやってきます。